

事業概要

連絡会企画運営事業

全国連携実務者ネットワーク連絡会を年1回開催し、講演やグループワークを通して全国の連携実務者への情報共有や意見の交換の場を提供します。

情報提供事業

WEBサイトの運営やニュースレターの発行等により、連携実務やネットワーク活動に関する情報提供を行います。

相談窓口事業

相談窓口を設置し、連携実務に関する具体的な業務等に関する相談から、地域でのネットワークの立ち上げや組織運営に関する相談及び支援を行います。

人材育成事業

全国の連携実務者向けの研修会等を開催し、連携実務者の人材育成に取り組みます。

会員構成

本法人の趣旨にご賛同いただける方は、どなたでも会員になることができます。ただし、原則として理事会の承認を得るものとします。会員は、正会員と賛助会員とで構成されます。

- 正会員

本法人の目的に賛同して入会した個人。

入会金 無料

年会費 5,000円
- 賛助会員

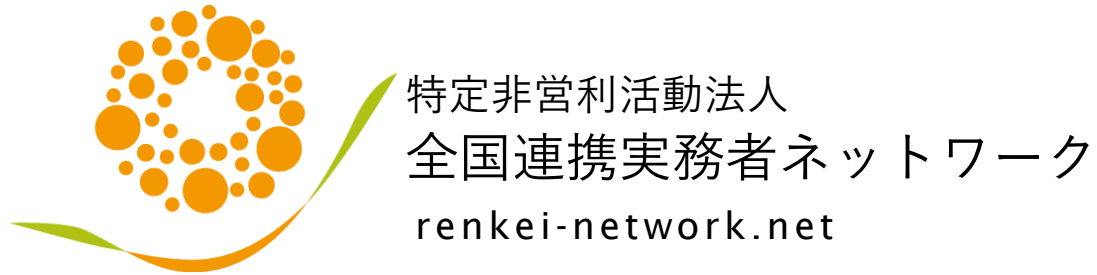
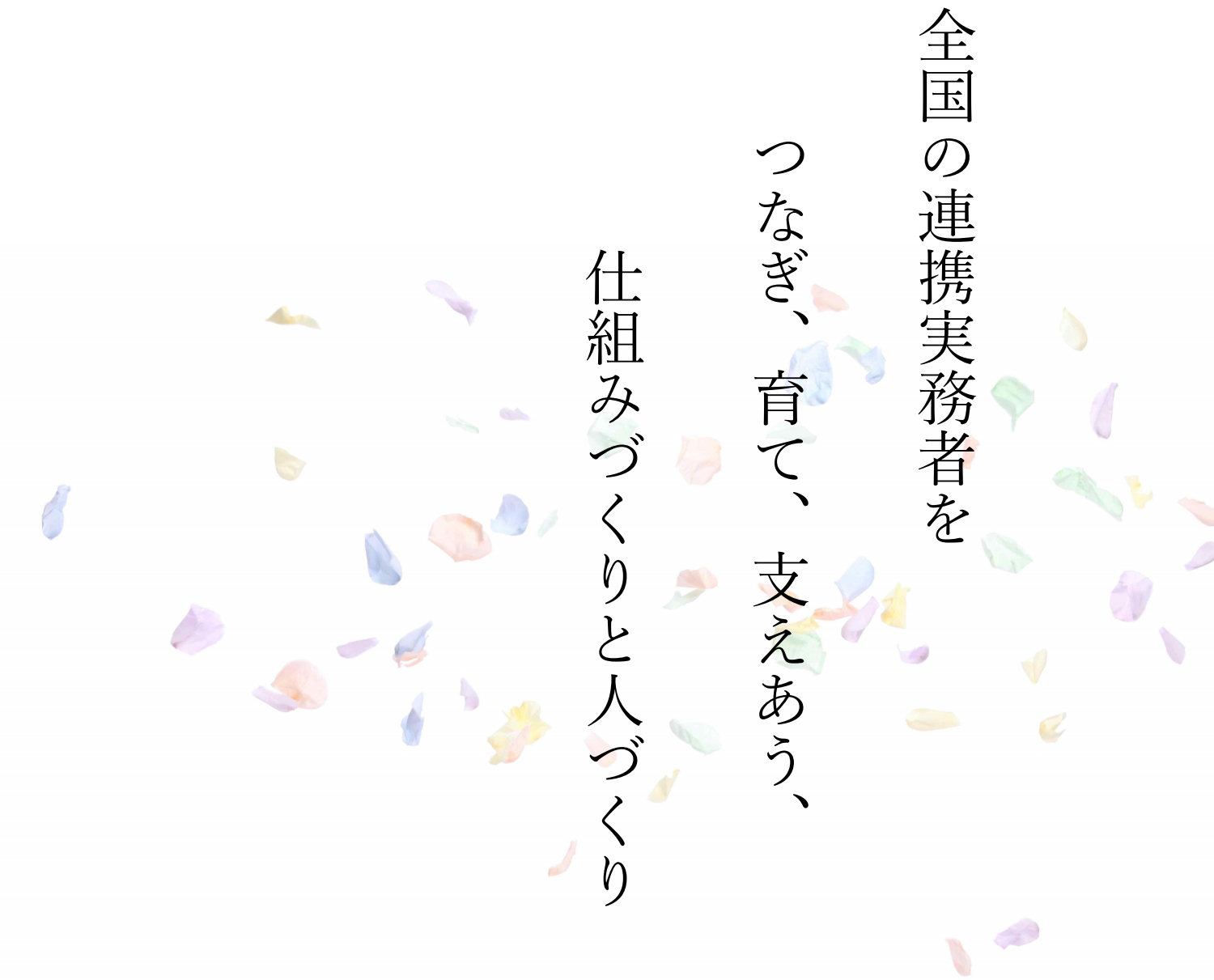
本法人の目的に賛同し、賛助を目的に入会した団体。

入会金 無料

年会費 50,000円/口（1口以上）

法人概要

名称	特定非営利活動法人全国連携実務者ネットワーク		
役員	理事長	湯澤 克	岩手県立宮古病院
	副理事長	斎川 克之	済生会新潟第二病院
	理 事	木佐貫 篤	宮崎県立日南病院
	理 事	小泉 一行	公立学校共済組合関東中央病院
	理 事	作間 宏教	一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
	理 事	重田 由美	一般社団法人日本地域統合人材育成機構
	理 事	瀬尾 利加子	株式会社ストローハット
	理 事	十河 浩史	倉敷中央病院
	理 事	田原 久美子	脳神経センター大田記念病院
	理 事	仲地 貴弘	豊見城中央病院
	監 事	下村 裕見子	北里大学大学院医療系研究科臨床医学群精神科学
	監 事	三谷 嘉章	慶應義塾大学病院
所在地	〒165-0026 東京都中野区新井2-1-16 KMTビル601		
連絡先	info@renkei-network.net		
事務局	株式会社ストローハット		



私たちが見据えること、

連携実務者が「つなぎ手」として地域で活躍できる社会。

私たちができること、

地域連携に関する「知識」「人脈」「熱意」の蓄積と共有。

連携実務者が担うのは、地域の人と人、資源と資源をつなぐこと。

社会は私たち「つなぎ手」の活躍を求めています。

設立趣旨

地域連携の実務は、各機関の規模や地域事情などによって異なるため、確立された方法論が存在せず、連携実務者は自らが創意工夫するか、他の連携実務者の実践に学ぶほかありませんでした。

このような状況を打開すべく立ち上げられた任意団体「全国連携室ネットワーク」は、全国の連携実務者の学習の場の提供、情報共有や意見交換、そして実務者が相互に協力できる体制づくりを目指して活動してきました。

また、超高齢社会を迎えるにあたり、生涯、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、医療及び介護サービスなどを地域で一体的に受けることができる地域包括ケアシステムを構築することが喫緊の課題とされており、連携実務者やネットワークに対する期待は高まっています。

この機を捉え、名称を「全国連携実務者ネットワーク」へと改めるとともに法人化を行い、社会的責任と信用を明確にし、組織的基盤を強固なものとすることで、更にその活動を推進します。

連携実務者の学習や意見交換の場の提供、連携実務やネットワークに関する情報の提供、相談窓口の設置等の事業を通じて、全国の連携実務者の業務の質を高め、より良い医療及び介護サービスを国民が享受できる豊かな保健医療福祉社会の推進に寄与することを設立趣旨とします。



《連絡会開催実績》

平成19年3月	第1回全国連携室ネットワーク連絡会（静岡県）
平成20年4月	第2回全国連携室ネットワーク連絡会（山形県）
平成21年4月	第3回全国連携室ネットワーク連絡会（長野県）
平成22年4月	第4回全国連携室ネットワーク連絡会（広島県）
平成24年4月	第5回全国連携室ネットワーク連絡会（宮崎県）
平成25年4月	第6回全国連携室ネットワーク連絡会（神奈川県）
平成26年4月	第7回全国連携室ネットワーク連絡会（北海道）
平成27年4月	第8回全国連携室ネットワーク連絡会（愛媛県）

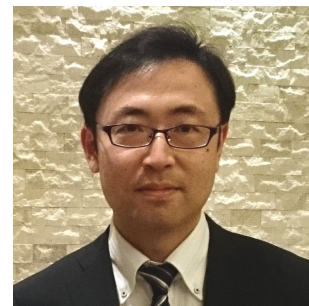
全国の連携実務者との出会いが、自信と勇気に。



湯澤 克 理事長（社会福祉士）

岩手県立宮古病院 地域医療連携室 医療社会事業士

全国の連携実務者との出会いが、私の人生を大きく変えました。日々の連携実務に自信を与え、視野を広げ、そして次のステージに導いてくれる。それが全国連携実務者ネットワークです。連携実務者という、人と人をつなぐ人材を社会が必要としています。さあ、一緒に「連携」の扉を開けましょう。



斎川 克之 副理事長（社会福祉士、医療福祉連携士）

済生会新潟第二病院 地域連携福祉センター副センター長

病院のパフォーマンスを最大限に引き出すには地域との連携があつてこそ。そして地域包括ケアシステムにおけるソーシャルワーカーが果たすべき役割はとても大きく、地域で活動する時代です。だからこそ「院内をつなぐ、地域をつなぐ」さまざまな取り組みを学び、一緒に実践していきましょう。



木佐貫 篤 理事（医師）

宮崎県立日南病院 医療連携科部長

地域連携のポイントは「つなぐ」。多職種が関わる連携の現場において、医師は核となりつつ多職種の活動を見守る役割を担います。そのためには医療介護や地域をみる幅広い視野が求められます。実務者ネットワークで様々な職種の方とつながることで、地域包括ケア時代の医師の役割を一緒に考えていきましょう。



重田 由美 理事（看護師）

一般社団法人日本地域統合人材育成機構 代表理事

役割や視点の違う様々な職種がつながり、患者さんが安心して過ごせる環境を整えるためには、全人的に捉えることができる看護師のチカラが重要です。さらに普段から仲間と呼べる他職種との関係性が構築できていれば鬼に鉄棒！ この場でつながりの楽しさを一緒に共感しましょう。



十河 浩史 理事（事務職、病院経営管理士、診療情報管理士）

倉敷中央病院 地域医療連携・広報部部长

地域連携は経営そのものであり、影響は地域全体に及びます。多職種の中で事務は、スペシャリストとして人（自由なつながり）・もの（地域連携パス冊子や広報）・情報（医療行政、地域連携に見える化）を紡ぎ、永続的に地域の課題に取り組むための組織の運営(診療報酬)を支援できると思います。あなたも一緒に全国の連携を創りましょう。